

第1回の検討委員会における御意見

現在のところ、エコ・コンパクトシティという原理的概念が定義されていないなか、京都市として今後どのようにマネジメントしていくべきであるかを駅に着目して概念化することではないか。

今回の考え方は、極端に言うとも、市の中心部に集積を図ることにより、コンパクトにするという方向ではなく、面的な一定の広がり毎に人口の山を複数作り、それをうまくネットワークする構造に変えていく、その一つの手掛かりに駅を使いたいということではないか。

都市機能の集積を図る駅を抽出する場合は、データから抽出される駅や京都市の政策から戦略的に抽出する駅等、抽出する方法が何通りかあってもよいと思う。

京都市におけるエコ・コンパクトな都市構造について、再度、整理を行う。

京都市において今後目指す都市構造～エコ・コンパクトな都市構造～

はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）

土地利用と都市機能配置

～地域ごとに魅力があり、持続的な都市活動を支えるエコ・コンパクトな都市をつくる～

（基本方針）

人口減少や少子高齢化、低炭素社会実現への対応などの社会動向を見通し、都市を効率的に経営する視点を持ちながら、「保全・再生・創造」の都市づくりを基調として、地域ごとの特性を生かすための多彩で个性的、かつ秩序ある土地利用の展開や、地球環境への負荷の少ない集約的な都市機能の配置を図ることにより、さまざまな都市活動を持続的に展開することのできる都市を実現する。

京都市都市計画マスタープラン

将来の都市構造～エコ・コンパクトな都市構造～

これまでの保全・再生・創造の土地利用を基本としながら、交通拠点の周辺に都市機能を集積させるとともに、地域コミュニティを基本とした生活圏の維持・構築を図ることで、それぞれの地域が公共交通等によりネットワークされた、暮らしやすく、地球環境への負荷が少ないエコ・コンパクトな都市構造を目指す。

※ エコ・コンパクトな都市：

地球環境への負荷が少ない、まとまりのある土地利用を図ることにより実現される、にぎわいのある、暮らしやすい都市

基本的な考え方

市民の暮らしを支える視点

多様な商業機能等が集積する広域的なニーズに対応した複合拠点である地域

や

一定の公共機能や商業機能が集積し、地域のニーズに対応した拠点となるような地域

が公共交通拠点の周辺に複数存在している。

また、

食料品や日用雑貨品等といった日常の買物ができる周辺の居住者のニーズに対応した生活圏

が多数存在し、これらの地域が公共交通等によりネットワークされることにより市民の日常生活を支えていく。

都市の活力を生み出す視点

まちなみや歴史的資源が多くあり、観光都市として年間5,000万人の観光客

が訪れるとともに、

大学のまち、ものづくり都市として多くの通勤・通学者

が都市の中で活動している。

京都市の魅力となる地域（魅力づくり拠点）

- 京都市の活力を高める、都市の魅力を生み出す拠点を有する地域
- ・にぎわいの拠点
- ・観光の拠点
- ・ものづくりの拠点
- ・大学等の学術の拠点
- ・文化・交流の拠点

① 広域的な商業機能が集積する駅周辺地域(広域複合拠点)

商業機能などの多様な都市機能が高度に集積し、京都を代表するにぎわいと魅力を有する駅周辺地域（都心部、京都駅周辺）

② 地域の核となる利便性の高い都市機能が集積する駅周辺地域(地域複合拠点)

公共機能や店舗等の商業機能などの利便性の高い都市機能が集積する、地域の核となる駅周辺地域

③ 徒歩圏内の日常生活を支える地域(日常生活圏)

徒歩圏内に生活必需品が揃う便利施設が立地しており、日常生活を支える地域

<京都市におけるエコ・コンパクトな都市構造のイメージ図について>

